

平成3年、大淀川上流域の水質は、「生活排水対策の遅れ」や「家畜排せつ物の不適正処理」、「畑地への過剰施肥」等により、九州の一級河川の中でワースト1位(最も汚れた川)にランクされました。

これを契機に大淀川上流域の行政などでは、河川浄化に向けた取り組みを開始し、水質は改善傾向にありますが、冬場の水量が少ない時期に環境基準値を超過するなど、まだまだ改善が必要な状態です。

このような中、大淀川の水環境の更なる改善に向け、産官学民の連携の強化を図り、地域と一体となった取り組みをより一層促進するため、大淀川清流ルネッサンスⅡ 特別シンポジウムを開催しました。

■開催日時:平成31年1月30日(水)13:30～16:20

■開催場所:都城市ウエルネス交流プラザ ムジカホール

■参加人数:221名(行政:90名 住民:43名 企業:73名 学校:13名 その他:2名)

○第一部 基調講演

第一部の初めに、出席者のみなさまに大淀川の現状を把握していただくため、MRTがいくつか放送したビデオ2017大淀川サミットテレビ特別番組【守れ命の川「大淀川」】の一部を鑑賞いただきました。次に基調講演では、宮崎県立都城工業高等学校、霧島酒造株式会社、ヤマエ食品工業株式会社、NPO法人都城メダカの学校の方々から大淀川の水環境改善に関する取り組みなどについてお話していただきました。

■会場の様子



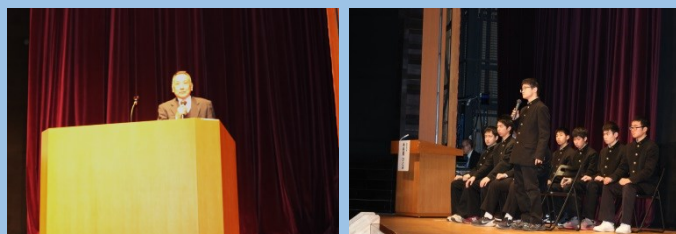
■総司会



木佐貫 ひとみ 様

フリーパーソナリティー。司会者、シンポジウムコーディネーターとしても活躍。
MRTラジオ「エ・コ・コロカフェ」を担当し、環境や防災をテーマに、ココロに沁みる新しい暮らしの提案をしています。

■宮崎県立都城工業高等学校宇賀村先生と生徒9名



●テーマ:「都城地区河川水質改善プロジェクトから始めた8年間の環境保全活動～大淀川の水質改善をめざして～」

●内容:「高校化学部における取り組み(活動状況・調査結果)と広報活動」

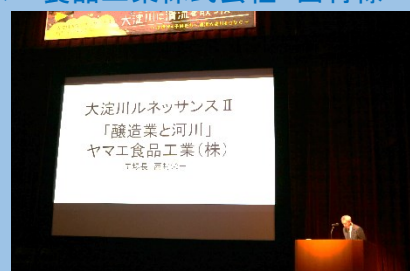
■霧島酒造株式会社 宮里様



●テーマ:「霧島酒造の環境への取り組み」

●内容:「企業として環境への取組(蒸留温排水の有効利用、下水放流水の再利用、霧島くつろぎの森づくり、他)」

■ヤマエ食品工業株式会社 西村様



●テーマ:「醸造業と河川」

●内容:「当社の製造工程や製品の一部紹介」「当社付近の大淀川の歴史」「環境負荷軽減に対する取り組み」

■NPO法人都城メダカの学校 永田様



●テーマ:「都城メダカの学校28年間の大淀川との関わり」

●内容:「地域団体としての現在の取り組み」

○第二部 パネル討論会

【パネル討論会の概要】

第二部では、MRT宮崎放送の川野様のコーディネートによるパネル討論会として、「大淀川に清流を取り戻せ！～次世代の子ども達へ、清流大淀川をつなぐ～」をテーマに、官民の有識者8人に住民から見た流域の課題や大淀川の未来へ向けて何をすべきなのかをご議論いただきました。議論の中で、大淀川から水、食料、環境、文化などの様々な恵み(生態系サービス)を受けており、大淀川の水をきれいにすることも生態系サービスの根幹になること、そして流域の住民、行政、企業が連携して、次世代に向け生態系ネットワークを形成していくことが重要であることを認識しました。参加した市民らは、身近な大淀川の環境保全について改めて理解を深めていました。

【パネル討論会の主な内容】

■大淀川の水質は本当に良くなっているの？

- ・「生態系サービス」について説明
- ・大淀川の水質の推移(調査結果を踏まえた現状の提示)説明

■全国の河川に比べたらどう？このままでよいの？

- ・全国から見た大淀川水質の評価、水環境の重要性への問題提起

■住民から見た流域の課題

- ・大淀川で活動を実施している立場からの水質悪化の危機感に関する説明
- ・暮らしという視点から大淀川の存在、人と川との関わりに関する課題について説明
- ・流域の広葉樹林再生の重要性と森林の課題について説明

■対策の実態は？

- ・水環境の課題と施策(都城市の課題と都城市環境基本計画紹介)
- ・県の環境施策の展開(環境人材プロジェクト:体験型環境教育の推進等)

■大淀川の未来へ向かって実施すべき事は？

- ・「水環境再生に向け、各機関の主体的な取組みや連携の重要性」の観点で意見
- ・「行政と民間の役割分担、民間での水環境対策の方向性」の観点で意見
- ・「市民レベルの水環境再生活動」の観点で意見
- ・「市民が暮らしの中で実施できる水環境再生活動」の観点で意見
- ・「環境再生に対する上下流交流」の観点で意見
- ・「行政立場から今後の水環境再生への取組み、民間への支援」の観点で意見
- ・行政立場から今後推進して行く水質保全への取組みを説明
- ・河川管理者の立場から行動計画を含めた総括を行う
- ・「大淀川の未来へ向かって実施すべき事は？」の全体総括
- ・会場へ「自分達が出来ることから活動をしていきましょう」と参加者を促しました。

■コーディネーター 川野様



コメント:「まずはこの川で成功事例をちゃんとつくって、未来に渡していくべきだと私は思います。ともに皆さん、この大淀川の清流を取り戻しましょう。」

■宮崎大学名誉教授 杉尾様



コメント:「生態系サービス、そういったものを次の世代に引き継いでいくということで皆さんに啓発していくところが大切なのではないかなと思っています。」

■宮崎大学教授 鈴木様



コメント:「信頼できる関係を構築していただいて、連携しながら困った時に聞くような体制づくりを今後進めていけば、大淀川が清流に戻るんじゃないかと思いました。」

■NPO法人都城大淀川サミット
理事長 奈下様



コメント:「大淀川サミット大会を復活して子どもたちが大淀川の本川で遊ぶ、または魚とりをする、そういう場をつくっていききたいと考えております。」

■都城市 副市長 児玉様



コメント:「信頼できる関係の構築を考えたとき、本日のシンポジウムを契機として、そういったネットワークの形成を行政としても積極的に取り組んでいきたいと考えています。」

■NPO法人手仕事舎そうあい
理事長 蒲生様



コメント:「暮らしの生活者の視点から、まず日々の暮らしの遊びと知恵とかいうものの伝承も、今から呼び戻すことが大事なんじゃないかなと思います。」

■宮崎県環境森林部
環境管理課長 富山様



コメント:「県としましては、子どもたちが身をもって水の浄化が必要、河川を大切に、河川を浄化することが大切ということを教えていって、啓発していきたいと考えています。」

■NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 会長 平原様



コメント:「例えば、都城だけがある意味の努力をしても、どうしても水質は改善できないのではないかな。何か行政を飛び越えた対策というものも必要であると考えます。」

■宮崎河川国道事務所 副所長 岩崎様



コメント:「私たちの大淀川でも、生態系ネットワークの形成ということをあわせて、大淀川、それから地域の皆さんのためになるように取り組んでいきたいと思っています。」

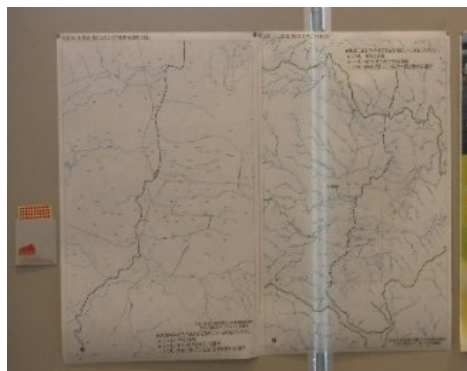
パネル・気になるマップ展示

会場のロビーでは第一部、第二部でお話いただいた方々の活動を紹介したパネルを展示しました。

また、地域のみなさまが大淀川上流域の気になる箇所にシールを貼っていただく気になるマップの展示を行いました。気になるマップの結果は今後の水質改善等に役立てる予定です。



パネル展示(NPO)



気になるマップ